

# イタリアンライグラス「アキアオバ3」は 2年以上利用できる

福島県農業総合センター 畜産研究所 飼料環境科

部門名 飼料作物－草地－品種

担当者 菅野那奈、木村有希、片倉真沙美、國分洋一、柳田和弘、萩原瞳

## I 新技術の解説

### 1 要旨

イタリアンライグラスは一年生草種であるが、近年は2～3年利用可能な晩生品種が育成されている。そこで、本県の気象条件等に適しているか3年間調査した結果、「アキアオバ3」は越夏性・収量性に優れ3年間利用できた。

- (1) 「アキアオバ3」は越夏性が高く、3年間越夏後も収穫できた(表1、図1)。
- (2) 「アキアオバ3」は1年目の収量も県の奨励品種「ヒタチヒカリ」より多く、3年間の総乾物収量は「ヒタチヒカリ」の2倍だった(図1)。
- (3) 利用1年目の乾物収量を確保できるよう追播を行った場合、「アキアオバ3」の種子価格は2年利用で「ヒタチヒカリ」より2,102円/10a、3年利用で4,705円/10a安くなる(表2)。

### 2 期待される効果

- (1) 「アキアオバ3」が新たな奨励品種に選定され普及することにより、越夏後も粗飼料の安定生産が期待できる。
- (2) 2年以上利用できる「アキアオバ3」は省力的な粗飼料生産が期待できる。

### 3 適用範囲

- (1) 県内全域

### 4 普及上の留意点

- (1) 試験は福島県農業総合センター畜産研究所内ほ場(福島市荒井：標高295m、3年間平均気温12.6°C)で行った。
- (2) 草勢が衰える可能性があるので盛夏時の刈り取りは避ける。

## II 具体的データ等

表1 生育特性

品種・系統名	出穂始			発芽の良否 (播種後17日)	定着時草勢 (播種後41日)	越冬性	越夏性	病害 発生程度	秋の被度 (%)
	2022年	2023年	2024年						
アキアオバ3	5/10	5/12	5/14	4.0	4.7	5.6	6.3	3.0	43
ヒタチヒカリ	5/10	-	-	3.3	4.3	5.3	1.0	-	5

- 1) 発芽良否、定着時草勢、越冬性、越夏性は極不良を1、極良を9とした評点法で示す。
- 2) 病害発生程度は2022年と2023年8月、2024年9月に発生した葉腐病。無を1、甚を9とした評点法で示す。
- 3) 「アキアオバ3」の越冬性、越夏性、病害発生程度、秋の被度は3ヵ年の平均値だが、「ヒタチヒカリ」は2022年のみの結果。また、病害発生前に株枯れしたため病害発生程度の評価なし。

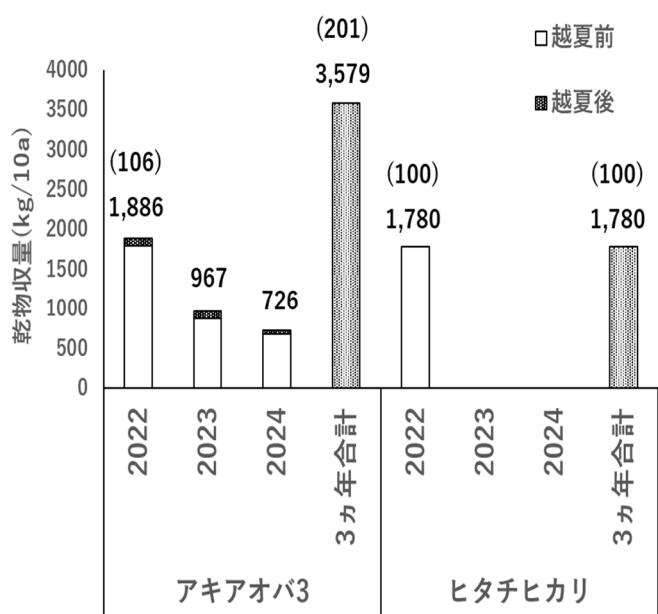


図1 3年間の乾物収量

- 1) 越夏前収量は8月までの収量  
越夏後収量は9月以降の収量
- 2) ( )内の数字は「ヒタチヒカリ」を100とした場合の値

表2 種子価格比較 (単位: 10a当たり)

		2年利用		3年利用	
		価格 (円)	播種量 (kg)	価格 (円)	播種量 (kg)
アキアオバ3	1年目	4,100	4.00	4,100	4.00
	2年目	1,998	1.95	1,998	1.95
	3年目	-	-	1,497	1.46
	合計	6,098	5.95	7,595	7.41
ヒタチヒカリ	1年目	4,100	4.00	4,100	4.00
	2年目	4,100	4.00	4,100	4.00
	3年目	-	-	4,100	4.00
	合計	8,200	8.00	12,300	12.00

- 1) 毎年1年目乾物収量と同収量を収穫可能と推定する追播量にて試算した。
- 2) 種子単価は2024年12月時点での価格を用いた。  
「アキアオバ3」と「ヒタチヒカリ」の1kg単価は同じ。

## III その他

### 1 執筆者

菅野那奈

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 牧草・飼料作物の優良草種・品種の選定

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 飼料作物系統適応性試験実施要領改訂6版,2023